

微積分と中国語のアスペクト

呉凌非

滋賀県立大学

1 言語観

生成文法のように言語を一つの完全なシステムとして捉える考え方がある。また、言語を一つの進化しつつあるシステムとして捉えてもいいのではないかと本発表は考えている。言語を完全体としてみた場合、言語システムのなかの安定した要素に注目しがちだが、言語を進化体としてみた場合、言語システムのなかの変化する要素に目を向けがちだと思う。具体的には、中国語のアスペクトを表す「在」と「着」はこうした進化の結果と見る。

2 微積分の考え方

微積分の証明はここではできないが、その原理はおおよそ次のように説明できよう。

図1に示す関数 $f(x)$ の S という面積を求める場合、プロセスとしてまず、図2の拡大図に示すような ΔS という部分面積を順次切り出す、すなわち微分のアプローチをたどり、さらに図3に示すように図2で切り出した部分面積を集める、すなわち積分のアプローチをたどることによって全体の面積 S を得ることができる。式で表すと、図4になる。微積分の最大の特徴は面積を求める際に全体をスキャンすることによって動的にアプローチを取り入れた点といえよう。

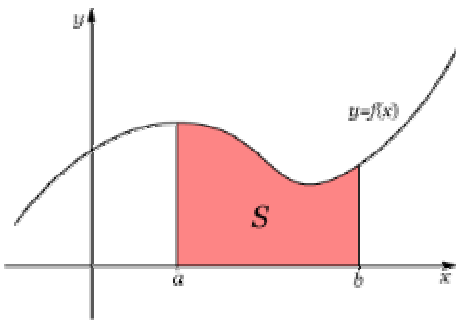


図1

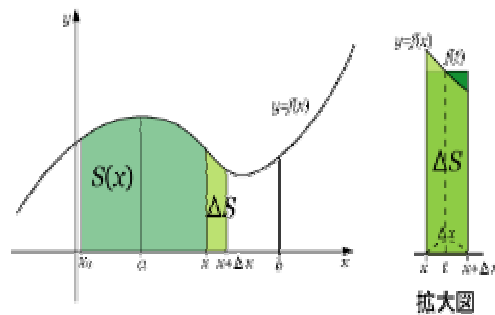


図2

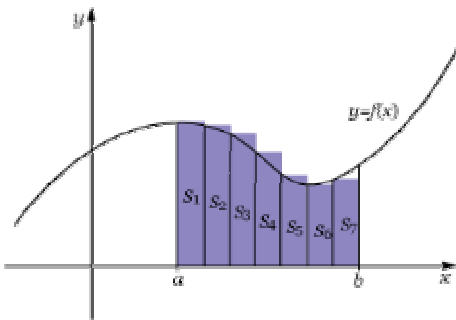


図3

$$S = \int_a^b f(x) dx$$

図4

3 微積分とアスペクトの捉え方の類似性

アスペクト、とりわけ進行相は事象の全貌を話者の観察によって得られるのだが、そのプロセスは微積分のスキンのプロセスと極めて類似していると考えられる。微積分のように事象の進行相を捉えることができれば、より厳密な言語記述も可能になる。実際中国語の進行相について考えた場合、中国語では、二つの概念、すなわち「在」と「着」が使われていることがわかる。これまでは、「在」を「動作の進行」、「着」を「動作の進行と結果の保持」と結論付けられてきた。しかし、この結論には二つの疑問が残っている。一つは「在」と「着」との関係は意味的には α とプラス α の関係なのか、もう一つは「在」と「着」との間にセットになるような補完関係が存在しているかどうかである。この二つの疑問を解くために、本発表は次のように仮説を立てる。

中国語で出来事の過程を記述する際に、アスペクト的には「着」は微分に類似する概念で、「在」は積分に類似する概念であると考えられる。比喩的に言えば、「着」は出来事のある瞬間の「写真」を指し示し、「在」は出来事のある時間帯の「連続写真」を指し示している。この考え方を踏まえて、本発表は「着」を「瞬間相」、「在」を「連続相」と定義する。

4 考察

「着」と「在」についてより全面的な考察を行うためには、動詞を分類して考察しなければならない。Schank (1975)は動作素の考えを提案している。動作素は最終的にいくつを定義すれば最適かは別として、本発表はその発想を取り入れて、動詞を次のようにわけるとする。

- I ゼロ周期動詞 1つの動作素しか含まれていない事象を記述する動詞をゼロ周期動詞という。例えば、「是（である）、有（ある）、属于（属す）」など
- II 単周期動詞 1組の動作素しか含まれていない事象を記述する動詞を単周期動詞という。例えば、「始まる（開始）、終わる（終結）、枯れる（枯）、割れる（碎）」など
- III 多周期動詞 1組の動作素が含まれ、その繰り返しが見られる事象を記述する動詞を多周期動詞という。例えば、「話す、走る、考える・・・」など

「着」及び「在」を類別ごとの動詞と共起させた結果、次の表のような傾向が見られる。

	在	着
ゼロ周期動詞	×	× ○
単周期動詞	×	× ○
多周期動詞	○	○

表 動詞と「在」及び「着」との共起

「在」については、「在」はゼロ周期動詞及び単周期動詞との共起が見られず、多周期動詞のみと共起できる。ゼロ周期動詞には動態性がなく、単周期動詞には持続性がない。「在」は動態性と持続性の両方を持つ多周期動詞とのみ共起できる点は、本発表の「在」に関する仮説と一致している。

「着」については、「着」はゼロ周期動詞、単周期動詞および多周期動詞のいずれとの共起もありうる。ただし、条件付である。ゼロ周期動詞の場合、「着」は「有」のような恒常性が相対的に弱い動詞との共起は可能だが、「是」のような恒常性の強い動詞との共起は難しい。単周期動詞の場合、「着」は「停（止る）」との共起は可能だが、「結婚（結婚する）」のような動詞との共起は見られない。これについては、事象に参加するセマンティックロールの視点から説明ができると考える。「着」と共起できる単周期動詞の場合は、事象が成立する際とその後のセマンティックロールの欠場が見られないが、「着」と共起できない単周期動詞の場合は、事象成立する際のセマンティックロールに対して束縛する必要がなく、発話するとき成立の瞬間と同様な情景はかならずしも目撃できるとはかぎらない。多周期動詞の場合は、ゼロ周期動詞と単周期動詞の場合のような制限を受けないため、多周期動詞との共起を阻む条件は存在しない。この点も本発表の「着」についての仮説とは矛盾するところはない。

5 問題点の解決

「在」を連続相、「着」を瞬間相と捉えることによって、すくなくとも次の2つの問題点を解決することができると思う。

問題Ⅰ (1) 他戴着帽子。はなぜ動態か静態かを判断できないのか。

問題Ⅱ なぜ (2) 他在裁一件旗袍。が成立し、(3) *他裁着一件旗袍。は不自然なのか。

問題Ⅰについては、「着」は動作の進行と結果の保持と考えられてきた。しかし、(1)は帽子をかぶる動作を表している可能性（動作の進行）もあれば、帽子を被っている状態（結果の保持）を表している可能性も同時にある。すなわち動作の進行と結果の保持は必ずしも対立していないわけである。そもそも「着」は瞬間相（一枚の写真）だと考えれば、動作の進行と結果の保持を区別する必要もないわけで、そういう矛盾も自然と解消される。

問題Ⅱについては、「在」は連続相であるため、発話の時点を超えて、一連の動作の中でその結果が含まれており、結果を予想できるのに対して、「着」は瞬間相であるため、発話の瞬間を越えた領域をカバーすることが制限されている。言い換えれば、「在」は全体の流れを表現しているのに対して、「着」は局部しか焦点を当てない性格を持っている。

6 終わりに

これまでの研究では、「在」は動作の進行を表し、「着」は動作の進行と結果の保持の両方の意味を持つとされてきた。しかし、本稿は微積分の視点から「在」と「着」の文法機能を比較することにより、両者は正反対の特徴を見せていることがわかった。その根本的な違いは「在」は動的「連続相」の側面を持っている

のに対し、「着」は局部的「瞬間相」の側面をもっていると考え。ただし、(4)が示しているように「一直」(ずっと)のような時間副詞を「着」と共起させることにより、事象の「断面」がつながり、「瞬間相」から「連続相」の様相を呈し、「在」の機能と重なってくる。これは「在」と「着」が同様に動作の進行を表すことが可能の理由だと考える。

(4) 她一直在读报。(彼女はずっと新聞を読んでいる。)

(5) 她一直读着报。(彼女はずっと新聞を読んでいる。)

逆に、(6)のように、「在」の連続相に対して、「正」(ちょうど)のような瞬間相の意味合いを持つ副詞を共起させることにより、「着」に類似する瞬間相の機能を持たせることも可能である。このように、「在」と「着」はアスペクトにおいて、互いに補完的な関係にあると考えられる。

(6) 她正在读报。(彼女は新聞を読んでいる最中。)

7 参考文献

- Comrie, B. 1976. *Aspect*. Cambridge University press.
- Cook, W. A. 1972. *A set of postulates for case grammar analysis*. Languages and linguistics: Working Papers No. 4. Washington, D. C. Georgetown University.
- 呉凌非 2001 「動詞の周期とその周辺」 滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 第6号 pp129-142
- Schank, R. C. 1973. *Identification of Conceptualization Underlying Natural Language*. Computer Models of Thought and Language. 187-247. San francisco: W.H.Freeman and Company.
- 吕叔湘 1980 <<现代汉语八百词>> 商务印书馆
- 左思民 2003 「论“(正)在”和“着”」 『現代中国語研究』 pp69-77
- 黄敏 2002 「浅析“了、着、过”的语篇功能」 <<汉语学报>> 第6期 pp68-72
- 王学群 1999 「中国語のV着について」 『現代中国語研究論集』 中国書店 pp207-226